第 140 回　『わかるように伝えていますか』

香川大学教育学部　特別支援教育領域　教授
香川大学教育学部附属幼稚園 , 園長
香川大学学生支援センター　バリアフリー支援室　室長 坂井　聡

私たちはなぜ学校でまなぶのか

４月になりました。新しい場所で学びを始めた人もいると思います。なぜ学校に行かなければならないのかと考える人もいるでしょう。そこで今回は、なぜ私たちは学校で学ぶのかという問いについて考えてみたいと思います。このことについて、考えたことがある人もいるかもしれません。答えは出たでしょうか？

コロナの問題、ウクライナでの戦争の問題、私たちは様々な問題に直面する社会を見てきました。これらの問題は、解決していかなければならない問題です。なぜならば、私たちが生きていく社会にある問題だからです。

この不確実な時代だから、特に問うてもらいたいのがなぜ学校で学ぶのかという問題です。
私が小学生の頃から教育は、やりたいこと打ち込みたいことなど考える前に暗記することが大切でした。
そして、テストの点数だけで色々なことが決まっていく社会となっていました。しかし、そのような時代は終わります。
与えられた問題が暗記していることだけで解決するのであれば、AI（人口知能）でも答えを出すことができるからです。

学校では正解が求められますが、みなさんが生きていくこれからの社会では、問うことの方が大切になるのです。
そしてそれがみなさんの進むべき方向になります。与えられるのではなく、自分から探すことが大切になるのです。
それを学校で学ばなければなりません。これからの学校の学びは暗記を求めるのではなく、
考えることを大切にしなければならないのです。

人間だけが、教育する動物です。多くの動物は教育を受けなくても生きていくことができます。
それは、遺伝子に書き込まれていることだけで生きていくことが可能だからです。
人間の場合は、遺伝子に書き込まれている情報だけで生きていくことはできません。それは、社会の変化に
遺伝子の変化が追いつかないからです。社会の変化が速いからです。そこで、人間は生まれてから学ぶという方法で
生き延びることができるようにしたのです。それを形にしたのが学校なのです。

だから、私たちはみんな学校で学んでいくのです。社会の変化に対応することができるようにするためです。

では、何を学んでいけばよいのでしょうか。孔子が論語の中で次のように述べています。
「これを知る者はこれを好む者にしかず、これを好む者は、これを楽しむ者にしかず」ということばです。
これは、知るよりも好きになること、好きになることよりも、楽しむことが大切であることを意味しています。
このように考えると、暗記して覚える時代から好きになって学ぶ時代、そして、好きなったことを楽しむ時代が
来ることが予想されます。知って、好きになって、楽しく行動する。これが身近にできるのが、学校なのです。
だから、これからも学校で自分が楽しく行動することが何かを見つけるために学ぶのです。

これが学校で学ぶ理由です。だから学校が必要なのです。

～坂井聡先生のご紹介～

《プロフィール》

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学科研究科修了。香川大学教育学部付属養護学校などの養護学校教諭を経て現在、香川大学教育学部特別支援教育領域 教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞を受賞。